

令和5年度 第2回 西宮市環境計画推進パートナーシップ会議 議事録（発言要旨）

- 開催日時：令和5年10月24日（火）9：30～11：30
- 開催場所：西宮市役所 第二庁舎 6階 601会議室
- 出席委員：狭間会長、樋口委員、畑田委員、内田委員、山崎委員、津高委員、達川委員、藤田委員、贄田委員、鈴木委員、曾我委員、石丸委員、花田委員
- 事務局：（環境局）大西局長  
（環境統括室）鮫島室長  
（環境企画課）鮫島課長（兼）  
（環境学習都市推進担当）小田担当課長、中村係長、瀧川係長、田中係長、福島主査、鮎川主査、樋口副主査  
（ゼロカーボンシティ担当）竹内担当課長、空中係長  
（環境事業部）森川部長  
（美化企画課）藪内課長、北野係長  
（事業系廃棄物対策課）畑課長  
（環境施設部）鳥羽部長  
（施設管理課）大田課長  
（施設整備課）高橋課長  
（計画・調整担当）太田担当課長  
（土木局）尼子局長  
（公園緑化部）藤原部長  
（花と緑の課）船越課長、山本係長  
（教育委員会）漁次長

開会の挨拶

藤井委員が6月20日に退任。新たに贄田委員が就任。（事務局）

1. 第3次西宮市環境基本計画の中間見直しについて（協議）

- 「資料1 第3次西宮市環境基本計画中間改定素案（案）」
- 「資料2 第1回西宮市環境審議会での骨子案に対する意見と市の考え方」
- 「資料3 環境に関する市民アンケート調査結果」
- 「資料4 西宮の環境・地域について考えるワークショップ報告書」
- 「当日配布資料 第三次西宮市環境基本計画中間改定ポイント」について説明。（事務局）

- 当日配布資料について。環境目標の資源循環において、温室効果ガス削減量が下方修正さ

れているが、この背景を教えてほしい。また、これはゼロカーボンシティ実現に向けたものなのか。(委員)

→別途作成している区域施策編の計算方法に合わせ修正した。可燃ごみのプラスチックごみの含有割合等から温室効果ガスの排出量を算出しているが、これまでは一般廃棄物処理基本計画と区域施策編で採用している係数の考え方が異なっていたので、今回の一般廃棄物処理基本計画の中間改定で区域施策編の算出方法に合わせて修正したため、基本計画も修正した。(事務局)

→目標値を下げたのではなく、算定方法の変更によるものということか。(委員)

→はい。(事務局)

→ゼロカーボンへ向けて歩んでいると考えていいのか。(委員)

→使用する数値を区域施策編に合わせているが、可燃ごみ内のプラスチックを減らす姿勢は変わっていない。(事務局)

●資料1のP49について。市民参加の枠組みをかなり変えている点について、以前に環境審議会の委員をしたことがあるが、パートナーシップ会議(以下、「PS会議」という。)とは性質が異なっていた。指定樹木の解除などの審議をしていたと記憶しているが、PS会議の機能も保たれ、環境審議会にまとめていくという理解でいいのか。現況の環境審議会はPS会議のようなディスカッションをするような会議ではなかった印象があるので確認したい。(委員)

→以前審議会の委員をしていただいた時から審議会では自然と共生するまちづくりに関する条例に関する議題が多かったが、現在は計画に関する議題が多く、議論の内容が変わってきている。また、審議会の体制も参画と協働の推進に関する条例も施行され、市民等の参画により運営されている。ただし、審議会に参加されている委員さんの人数が10名と少ないため、PS会議の良いところを残しながら審議会と合わせるようなイメージを持っている。PS組織においても各部会を設けて具体的な議論を行っていたが、推進体制図では別途パートナーシップの形は残した個別の委員会も設け、そちらへもスライドしていくイメージを持っている。(事務局)

●P47ページについて。環境教育のバージョンアップのイメージ図が示されて、子供を中心とした取組に加えて大学や公民館、図書館が中心となって地域に根差した活動も行っていくとある。回答者数が少ないのはわかっているが、アンケートの20歳代未満の意見として環境学習に取り組む団体や事業者の支援や環境に関する専門人材の育成について、西宮市に期待していることが読み取れる。小学生から社会人になるまで西宮で人材の循環ができれば、企業にとっても知識のある新社会人を採用できるのではないか。(委員)

→課題である中学生以上の環境学習をどうするかについて、ゼロカーボンへの道を歩んでいくことになる子供たちを応援したいと思っている。中学生の理科部等とどう連携していくかといったことにも取り組みたいと思っている。企業や団体の支援として、現状でもパートナーシッププログラムがあり、市としては多くの市民の皆さんに団体や企業が

っている環境学習にできるだけ参画してもらえようように広報の支援などを行っている。  
支援体制の充実も検討していきたい。(事務局)

- これから10年計画の後半を行っていくが、市の令和4年度の決算は40億円の赤字が出ている。事業を進めるうえで、お金や人、情報を組み合わせてやっていかなければいけないが、財政が非常に厳しい。一過性のものなのか、構造的なものなのか、赤字の理由はわからないが、これからの行政施策に影響が出てくるのではないかと。来年度(令和6年度)の予算の編成については20%のシーリングがかかっている、人員を200名減らすという話を聞いた。そういったことを考えると、計画の見直しに影響が出てくるのではないかと。きめ細かく見直しをしているが、市の財政を考えたときにこれからどう進んでいくのか。(委員)

→市長は令和7~8年度の予算策定時にはそれ以降について職員や市民の皆さんにこれらの計画や改革をして良かったと思っただけのようにしたいと述べておられる。職員のみならず、市民に対する影響についても、「影響はある。」とおっしゃっている。しかし、私どもとしては市民に対する悪い影響については最小限に抑えたいと考えている。例えば職員の削減となると市としての体力がどうしても落ちることになるが、AIやDXなどの技術革新をもって、人を減らせるところは減らし、補填していきたいと考えている。あるいは国、他市と比較して抜きんでいる費用があれば、そこは削っていくといった対処も必要である。(公表された計画には)市が一丸となって進めていくが、今回の中間見直しの計画が100%実行できるかは、今の段階では自信がないところはある。しかしながら影響については最小限に抑えていきたい。(事務局)

→健全な財政なくして健全な行政は成り立たないと思っている。そこをしっかりと見据えてこれから取り組んでほしい。一部の税は余っているが全体では赤字といった歪な財政になっていることを職員全員が踏まえて行政運営を行って欲しい。計画が立派でもその裏付けが貧弱では絵にかいた餅になってしまう。(委員)

- P47の環境学習のバージョンアップについてだが、先生の働き方改革で時間が取りにくく、実際に活動をしていても時間が取れないと言われる。エココミュニティ会議がやりたいからやっていると捉えられているような行事もある。ここについて市の計画では学校はどこまで時間を割くことになっているのか。地域の活動についても参加される方が限定されており、今でも厳しいのに地域団体に属さない方まで参加となると難しい。市ではどのように考えているのか。PTAや地域の団体等もやめていく方が多く、イメージと真逆の方向に進んでいる。そのうえで職員が削減されるのであれば、市民や団体はどう考えて関わっていけばいいのか。(委員)

→自然学校などの大きな環境学習については県の実施している事業として形が決まっている。また、学校独自の取り組みについては年間の計画に組み込まれて、それに従っている。協力者が減ってきていることについては、今年度から全ての学校にコミュニティスクールが導入され、市民の方も学校の運営に携わっていくというシステムを西宮市の公立の

小中学校で進めていきたいと考えている。PTAについては学校ごとの事情にもよるので、そこを教育委員会が強く進めていくのは難しい。新たな形としてコミュニティスクールで地域の方にもっと学校の行事にも参加していただいて力を貸していただくという形で進めていく。教職員は法律で人数が決まっているので減少することは無いが、協力者の方々の時間や人数が減っていく可能性はある。(事務局)

→コミュニティスクールにも参加しているが、地域の方が参加するというような形ではない気がする。コミュニティスクールの運営についても学校や地区によってばらつきがある。エコの部分で、学校とエココミュニティ会議が連携するところが切れてしまっている。一緒になれば推進もできると思うが、学校側がわかっていない。先生方や公民館の方が計画を少しでも知っていることが大事だと思う。学校にもエコ担当の方がいるが、把握されている人と把握していない人がいる。管理職などに連携できる誰かがいれば、一律ある程度のことがわかればいいのかと思う。(委員)

●コラムが多くなっていてわかりやすくなったと感じる。改定版のP37とP40について、資料2で「わがまち美化活動」は再掲せず「わがまちエコ活動」の延べ参加率としたと書かれている。P37では「わがまち美化活動」の参加率20%で10万人の参加を目指している。これについては従前と変わらず、異論はないが、P40では「わがまち美化活動」を再掲せずに、延べ参加率50%、つまり24万人の参加を目指すということになる。具体的にどうなのか。市民活動として色々あるが、まとめる中でどのような考えで50%になったのか。(委員)

→安全快適の目標である「わがまち美化活動」を含んだうえで、あらゆる環境活動への市民の方の参加が分かるような目標が行動目標の指標としてはいいのではないかということで設定した。学校教育と連携しながら進めている環境学習や取組みに参加していただいている方の人数や環境学習施設の来場者などを足し合わせると、コロナ前は40%ほどであった。コロナによって落ち込んだところもあるが、コロナ前に戻していこう、多くの方にご参加いただくということで過半数を目標として設定した。(事務局)

→「安全・快適」の指標であるわがまち美化活動を行動計画の指標として再掲しない、と書かれていることについてはどういうことなのか。場所が違うということはわかるが。(委員)

→骨子案の段階では安全快適の目標と行動目標の指標に同じ「わがまちエコ活動」としていたところ、審議会委員の意見の中で、「わがまちエコ活動」を安全快適に持ってくるのはいかなものかという意見が出た。安全快適という切り口があるので、環境基準などを使うのが適切ではないかという意見もあったが、市民・事業者が参加できる指標を設定する形で、事務局としてはすでに市民の皆様に参加していただいているものから広げていく方がいいのではないかと、ということで安全快適の指標に美化活動を、エコ活動を行動目標に設定した。(事務局)

●エココミュニティ会議を設置したとき、市民と行政と事業者が一緒になっている、自分た

ちが役に立っているという実感や意気込みがあった。コロナ禍で高齢化も伴って活動のエネルギーが落ちてきていると実感している。ごみ減量等推進委員の役割も形骸化してきているように感じる。エココミュニティ会議の在り方、存続について今後どうなるのかと考えている。冊子を見てもエココミュニティ会議の存在が読み込まれておらず、学校との関係も少なくなっている。代わりにコミュニティスクールが頑張ってくれている。エココミュニティ会議について情報交換をして本当に必要なのか考えてほしい。目標が達成できればいいと思うので、他の方法で地域の方とごみの削減を行うなど、前向きに考えてほしい。(委員)

→計画には書き切れていないが、エココミュニティ会議の役割は重要だと思っている。高齢化の問題は感じており、市の中でも地域の様々な団体と係る課同士で定期的に会議を行っている。地域活動の中で委員さんの負担軽減をどうするか、補助金を出して支援としていたが、情報発信や事務負担の軽減など支援のあり方を考えていきたいと思っている。(事務局)

## 2. 各部会報告（報告）

地球温暖化対策部会

「資料6 地球温暖化対策部会の実施報告及び中間改定の検討事項」について説明。

※生物多様性推進部会、廃棄物減量推進部会については部会の開催予定のみ報告。(事務局)

●国の計画では家庭部門の削減目標が2030年度66%削減とされているが、西宮市の削減目標はこれでいいのか。(委員)

→国の計画等を踏まえて、市全体で46%以上削減を目標として設定した。参考として、家庭部門では54.9%削減を目標としている。(事務局)

## 3. 周年記念事業について（報告）

「資料5 にしのみや環境まちづくりフェスタ概要」

「当日配布資料 にしのみや環境まちづくりフェスタリーフレット」について説明。(事務局)

●目標参加人数はどの程度を考えているのか。(委員)

→今回は初のイベントなのではっきりとした数字は難しいが、3000名程度と想定している。

#### 4. その他（報告）

「資料7 「世代を超えて続くエコカード活動」について（報告）」について説明。（事務局）

- 以前は市民活動カードがあったが、今年からなくなって小学生とその親だけの活動になっている。以前はあらゆる世代にカードが配られていたことを考えると、「世代広く」というところが引っかかる。限定されていることが気になるので代替りのものを考えてほしい。（委員）

→市民活動カードについては、中学生以上に配布を行っていたが、なかなか普及が進んでいない状況にあった。そこで、中学生以上に対する環境学習をどのような手法で普及させていくか議論を行い、エコスタンプを押印するカードの対象については、家庭を中心に広げるツールとしての役割を重視し、小学生とその親を対象にさせてもらった。今まで参加していただいていた皆さんには、本ツールとは違う形での施策を考えていく。（事務局）

#### 5. 連絡事項

- 来月11月に2回目の審議会を行い、そこで本日の素案について審議を頂く。その後、12月下旬から遅くとも1月初めから1月末までパブリックコメントを募集し、策定を行う。（事務局）

- 西宮市の良いところはEWCのカードシステム・エココミュニティ会議・PS会議だと思っている。エコカードは今年からのやり方だと、中学生から親になるまで、小学生の子供がいない市民は除かれる。エコ活動をした方に直接スタンプが押印されたエコカードを配布すれば普及するのではないか。また、P40のエコ活動とエコカードはリンクしているのか。リンクしたほうがいいと思う。P20~21にかけてページ下部が空いているのが気になる。素敵な取組なのでもう少し記載してもいいのではないか。P43にアンケート結果の概要が書かれているが、ワークショップも同様に記載してはどうか。エココミュニティ会議の活動を育てることが大切だと考えている。学校にも素晴らしい先生はいるが、異動して続けられないということもあり、そういう時に、地域がしっかりしていることが大事だと思う。また、P49の推進体制について、PS会議は様々な立場の方が集まっており、この体制が消えるのはいかなものかと思う。若者の参加を高めるための方法として3つ挙げられているが、これを個別に行うのではなく、統合して行うことが大切である、ということもP47のバージョンアップに加えていってはどうか。キーワードは「地域愛」だと思うので、市民がどれだけ西宮に関心があり、愛があるのかを基本にして、それを感じられる計画だといいと思う。（委員）

→多岐にわたるご意見を頂いたので、事務局で整理し、計画に反映できそうなところは反映

したいと思う。(事務局)

→様々な会議に出てきたが、愛の裏付けがないと心が伝わらない。次世代の子供たちにいい環境を残すといった使命感で活動している。(委員)